

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 学校法人君津学園 市原中央高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒290-0011
千葉県市原市土宇 1481-1

E-mail : ichihara-chuo@kimigaku-ich.ed.jp

Website : http://www.kimigaku.ed.jp/ich/

児童生徒数：男子 425 名 女子 410 名 合計 835 名
 児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

国際教育事業及びボランティア活動に精力的に取り組んできた。本年度は、新たに英語コースの第1学年に学校独自科目として『UNESCO (ユネスコ)』を設置し、外国人講師の指導のもと、より生徒が主体となった活発な活動が行なわれた。平成20年に国際ロータリークラブより認証を受けた、インターアクトクラブを中心として、学校全体でボランティア活動にも取り組んでいる。エコキャップ回収、学校周辺及び無人駅の清掃と植栽活動、書き損じハガキ回収、募金活動などは、すでに学校全体のボランティア活動として定着をきてきており、ESDパスポートの活用もインターアクトクラブを中心に行なわれている。

本年度、特に力を入れていたのが、大型台風により甚大な被害を受けたフィリピンへの支援活動であった。現地で医療活動に携わる日本人の方と連絡を取り合い、単に支援物資を送るだけでなく、生徒一人ひとりの気持ちも伝えることができるような支援活動ができるようにと工夫をした。全校生徒に対して、「不要になったクレヨン」の提供を呼びかけ、集まった大量のクレヨンのうち、短くなったものだけを一度細かく砕いて後、星型やハート型などの型枠に入れて溶かし、新たに色彩豊かな『マーブルクレヨン』を作った。また、文字を読むことができない子供も多くいるということで、あえて文字ではなく、絵と写真を使ってこの『マーブルクレヨン』の製作過程を図示したポスターと地域の方々と保護者の協力で集まったTシャツやポロシャツなどの支援物資と一緒に送った。約3ヶ月後に、現地から感謝の気持ちが書かれたハガキが送られてきた。

このほかに、市原市国際交流協会主催の国際交流フェスティバルにブースを設置し、日頃のボランティア活動の様子の紹介と石鹸で作るフラワーソープ体験教室を実施。ブースを訪れてくれた多くの方々に自分達の活動を紹介し、知ってもらい、エコキャップ回収などの協力を呼びかけることで達成感を得たようであった。

生徒一人ひとりを中心となった日頃の活動が評価を受け、本年度は「第1回高校生ボランティア体験発表会」にて最優秀賞、「第18回ボランティアスピリット賞」にてブロック賞を受賞した。

また、国際教育活動としては、マレーシア、台湾への研修生徒派遣を行なったほか、オーストラリア・ブリスベンにある姉妹校 Faith Lutheran College, Redlands との交流活動を積極的に行なった。姉妹校との交流活動にあっては、日常的に Skype を用いたインターネット交流や授業で制作した作品を交換して互いに評価をするプロジェクトを実施し、両校の生徒がより身近に感じられるような工夫を行なった。また、本年度は英語コース1年生を対象にした、マレーシアでの3泊4日の海外異文化研修旅行を新たに実施。独自科目である『UNESCO (ユネスコ)』において外国人講師と一緒に学んだことを、現地の人々との交流を通じて、さらに理解を深めることができるプログラムとした。主な内容としては、マレーシア奥地の村に入り、現地のこども達と一緒に植樹体験をしながら、自然環境保護について学ぶフィールドワーク。企業を訪問して日本とマレーシアとの関係について学ぶ、討論形式の学習。さらに、マレーシアの大学生とお互いに自国の文化を紹介するプレゼンテーションしながら、『両国の抱える問題』について討論をすることも行なった。このほかにも、アジア各国からのゲストを迎え、異文化理解を深めるグループディスカッションなども行ない、生徒の国際理解に対する意識が高まるとともに、コミュニケーション手段として用いられる英語力の大幅な向上も見られた。

『地域から世界へ』という考えのもと、来年度はより多く地域の方々の協力も得ながら、生徒一人ひとりの『気づき』につながる活動を行なっていきたいと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）